



新渡戸記念 中野総合病院だより

Nitobe Memorial Nakano General Hospital

1月号

令和8年1月1日号
439号

理念

新渡戸稲造博士の精神(誠意と
思いやりの心)を基にした医療
を誠実に実践し、疾病を抱えた
人を真心で支援する

基本方針

- ① 安全で質の高い医療の推進
- ② 急性期医療の充実
- ③ 地域医療の拡充と
地域医療連携の強化
- ④ 臨床研修指定病院としての機能の充実
- ⑤ 災害時医療の拠点病院としての機能の充実
- ⑥ 職員の教養・知識・技術の向上と待遇改善
- ⑦ 経営の安定化

新年のご挨拶

東京医療生活協同組合新渡戸記念中野総合病院 理事長 入江 徹也

新年明けましておめでとうございます。2026年の年頭にあたりご挨拶申し上げます。

先ず初めに本年が皆様にとって素晴らしい1年となりますよう心よりお祈り申し上げます。当院が当生協初代組合長新渡戸稲造博士の名を冠して「新渡戸記念中野総合病院」と改名してから10年が経ちました。今、当院は「新渡戸稲造博士の精神(誠意と思いやりの心)を基にした医療を誠実に実践し、疾病を抱えた人を真心で支援する」を理念として活動しています。この理念は当生協の「精神的支柱」であり、明確な「行動規範」です。2015年第66回通常総代会に於いて『「東京医療生活協同組合に託した新渡戸稲造博士の想いを次世代に引き継ぐ」事を旗印に、持ちうる力全てを結集したい。そのために、この度の新病院建設に先立ち、病院名を「新渡戸記念中野総合病院」へ変更する事を提案する』(第3号議案)と提案した時の熱い思いが鮮明に蘇ってきます。新病院建設は未だ道半ばの状況ですが、決して諦めること無く、新病院建設に備えて体力を蓄えるべく一歩一歩進み続けています。

本誌2025年1月号に於いて私は医療界が厳しい経営環境下にある中「今後3年から5年の間、医療の世界は再編成(生存と淘汰)」という厳しい

試練を迫られる」と述べました。最近になり漸く報道各社により「日本の医療の危機」が叫ばれ始め、この状況に対して昨年11月末、政府は補正予算の中で病院の支援に乗り出しました。しかし日本中のすべての病院が今後3～5年の間、生存か淘汰かという厳しい闘いの真只中にあることに変わりはありません。このような中で財務の改善を図ることは当然ですが、一番大切なことは、小手先の策を用いて単に生き残りを図ることではなく、「私たちが為すべきことは何か」「当院の存在意義(創設の原点)は何か」を求め続けること、言い換えれば、生き延びようと右往左往して自分を見失うことなく、救いを求めている人々に対する医療活動をひたすらにやり遂げることなのだと思います。今こそ、雲洞庵の禅僧 北高全祝が川中島合戦前に上杉謙信に授けた言葉「生中無生、死中有生」(生中に生有らず、死中に生有り)を思い起こし、私たちは医療者の本分を全うしなければなりません。医療安全を最重要視して質の高い急性期医療を地域に提供する、この一事に尽きると考えています。当院は「地域にとってなくてはならない病院」を目指して活動を続けて参ります。

組合員の皆様にはどうかご指導とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

新年のご挨拶



新年のご挨拶

病院長 山根 道雄

平素より新渡戸記念中野総合病院へご支援ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

厚生労働省より「令和8年度診療報酬改定の基本方針」が取りまとめられ、年末に補正予算が成立しましたが、厳しい医療環境は依然続いています。地域の中核病院としての役割を今後も担い続けるため、院内外の諸課題に対し本格的な改革の実施に着手しています。地域連携のさらなる強化、準夜間の救急応需率向上、円滑な入退院を実現するための仕組みの導入、アウトカムを意識したりハビリの実施向上などを推進しています。しかしながら最も大切なことは、一人でも多く、医療を必要とする目の前の患者さんへ、必要とされる急性期の医療を速やかに提供すること、これを全ての判断基準の根本(principle)とすることに変わりはありません。

医療の質の向上を目的に1年前に導入したe-ラーニングシステム「K-カレッジ/Waculba」は職員研修として定着

し、視聴時間が半期で20時間を超えた職員を暮れに表彰しましたが、10名中7名が一般職であったことは望外の朗報でした。これからも職種を超えて、個人と組織の成長を促すとともに、職員エンゲージメントの向上に努めて参ります。医療の質の第三者評価に関しては、公益財団法人日本医療機能評価機構による「医療の質可視化プロジェクト」(9指標)への参加を決定し、質の高い医療を推進して参ります。

若手医師の育成では、常勤医による日頃の指導に加えて、約半世紀前に当時研修医であった医の匠を招き、定期的な臨床講義「症例に学ぶ」を介して若手医師が遭遇する疾患の最新の知見とともに、今も変わらぬ医の心を口伝して頂いています。当院の伝統でもある「国際的な医療水準で温かみある医療」をモットーに、職種を問わず全職員で実践し、中野の地域医療をこれからも支えて参ります。

本年もご支援ご指導賜りますようお願い申し上げます。

2026年 新年のご挨拶

副院長 大野 玲

医療を取り巻く環境は日々変化し、急性期医療を担う私たちにとって、現場にかかる負担は軽いものではありません。それでも、人命救助という医療の原点を胸に、刻々と変わる状況の中で最善を尽くすことが、私たち医療者の責務であり、また矜持でもあります。その一つひとつの積み重ねこそが地域の安心を支えているのだと実感しています。

同時に、私たち医療者もまた、患者さんやご家族、地域の皆様、そして日頃から密に連携してくださっている診療所、クリニックの先生に支えられて歩んできました。厳しいご意見をいただくことも決して稀ではありませんが、それも当院への期待と信頼の証と、前向きに受け止めています。そして、時折いただく暖かい励ましや感謝の言葉は、私たちの活動の大きな力となっています。

私自身、外科の責任者を拝命してから、早いもので十数

年が経ちました。これまで多くの先輩や同僚に助けられながら、数えきれない修羅場もともに乗り越えてきました。近年は、優秀で情熱にあふれる若手が次々と成長し、頼もしい活躍を見せてくれています。一方で、働き方改革が、経験値の形成にどのような影響を及ぼすのか、彼らが指導的な立場になる未来にどのように現れるか、一抹の不安も覚えています。それでも、次世代がより良い形で存分に力が発揮できるように、静かに地ならしをしています。

これからも、「支える医療」と「支えられる医療」を両輪として、職員、地域の皆さま、そして連携いただく先生と共に歩み続ける、頼れる病院であり続けたいと願っています。

皆様にとって、この一年が健やかで実り多いものとなりますよう心から祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のごあいさつ

副院長 融 衆太

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに大阪・関西万博が開催され、インパクトのある公式マスコット、ミャクミャクが一躍話題となりました。いのちや知恵、歴史が途切れることなく未来へ受け継がれていくことへの希望が込められており、「つながり」を尊重する機運の高まった一年でした。当院内科・脳神経内科では、「救急要請を全て受けること」をモットーに地域医療への貢献に努めてまいりました。急性期医療の責務を果たすためには、かかりつけ医の先生方との協力が不可欠であり、顔の見え

るつながりを大切にしながら連携を深めてまいりました。また、学会発表や研修医教育にも積極的に取り組み、医療の質の向上と、将来を担う人材育成にも力を尽くしております。

本年も、一人一人の患者さんに真摯に向き合い、地域医療の“脈”を途切れさせることなくつなぐ中核として、さらには未来の医療の発展へと寄与できる病院を目指して邁進してまいります。末筆ではございますが、皆様の健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

看護部長 平澤 昌子

皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

2023年に病院機能評価を受審し良い評価をいただきましたが、再受審に向けて看護部一同、日々看護の質向上・維持に努めてまいりました。

地域の基幹病院として、患者様が住み慣れた地域で安心してすごせるよう、入院中から退院後の生活を見据えた、質の

高い看護を提供したいと思っています。

今年度も地域の皆様にご意見やご指導をいただき、更なる看護サービスの向上に取り組んでいく所存です。

末筆ではございますが、新しい年が皆様にとりまして素晴らしい1年になりますよう、心からお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

あけましておめでとうございます

事務局長 横井 悟

謹んで新年のお慶びを申し上げます。日頃より組合員の皆様をはじめ、地域の皆様、関係機関の皆様より賜る温かいご支援に、心より御礼申し上げます。

本年は^{ひのえうま}丙午にあたり、「丙」は物事が形として明らかになることを表し、「午」は活力と勢いを象徴するとされています。昨年は医療・福祉の現場において、人材確保や制度改正への対応など課題が続いた一年でしたが、そうしたなかでも私た

ちは地域の健康を支える使命を再確認し、業務改善や働きやすい環境づくりに取り組んでまいりました。

丙午の年は、これまでの努力が形となり、新たな挑戦が前進すると言われています。当生協も、地域により信頼される医療を提供できるよう、職員一丸となって取り組んでまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新年を迎え謹んでご挨拶を申し上げます

中野クリニック所長 佐藤 恵子

地域の皆様、また関係者の皆様におかれましては、日頃より多大なるご理解とご協力を賜り、改めて深く感謝申し上げます。

昨今、生成AIの急速な進化や地政学的リスクの増大、経済格差の拡大、価値観の多様化などが複雑に絡み合い、ますます予測不能で混迷を極めた時代となってきているように感じます。日本の医療を取り巻く環境は、これらの状況に少子高齢化による医療費増大や働き手不足が加わり日々厳しさ

が増してきていますが、このような時だからこそ私たち医療従事者は、医療の本質を見失うことなく各自が柔軟に役割を果たしながら、必要な変化は受け入れ時代に合わせて進歩していく姿勢が大切なのだと感じております。

末筆ではございますが、皆様のご健康とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。

旬の食材や食のまめ知識をご紹介します！

栄養科通信 50

【おせちの意味】



あけましておめでとうございます。皆様は年末年始をどう過ごされましたか。おせちを食べて過ごした方も多いのではないのでしょうか。近年はライフスタイルの多様化で「おせち離れ」が進んでいるといわれていますが、おせちは日本の伝統的な食文化であり、特別な料理です。

そこで今回は、改めておせちに込められた意味を紹介します。

おせちは糖質や塩分の高い食品も多いため、摂り過ぎにならないよう「少量ずつ」を心掛けましょう。本年もよい一年となることを願っております。

数の子

一腹に沢山の卵があるため、**子宝と子孫繁栄**

黒豆

まめ(まじめ・健康)に暮らせるようにとの願い。邪気を払う、**無病息災**

田作り

イワシの肥料を撒いた田んぼが豊作だったことから**五穀豊穡**

紅白かまぼこ

形が初日の出に似ている。赤色は「魔除け」、白色は「清浄」

伊達巻

形が巻物に似ていることから**学業成就**

栗きんとん

「きんとん(金団)」という意味をもち、金色が小判や黄金を連想させることから**金運上昇**

海老

腰が曲がるまで**長生き**できる

紅白なます

祝い事に用いる水引を表し、**平安と平和**を願う

昆布巻き

「養老昆布＝よろこぶ」で**不老長寿**、また、「子生(こぶ)」で、**子孫繁栄**

※諸説あり

「がん哲学外来」のご案内

当生協「新渡戸稲造記念センター」の樋野興夫センター長が全国に展開している「がん哲学外来」が当院でも開設されています。「がん哲学外来」は「がん」にまつわる様々な悩みを樋野興夫センター長との対話を通して解消する外来です。東京医療生活協同組合の組合員(ご家族)の方ならどなたでも無料で予約できます。

お電話で予約申し込みを受け付けています

電話 03-3382-1507

9時～16時30分(日曜、祝日を除く)

開催予定日 1/7(水)、1/8(木)、1/14(水)、1/20(火)
1/21(水)、1/27(火)、1/28(水)

1回約50分(1日4組まで)



樋野興夫センター長による「言葉の院外処方箋」はこちら▶

ご意見をお寄せください

東京医療生活協同組合は、皆様のご意見を当生協の運営に活用させていただいております。皆様のご意見は右記宛先までお送りいただきますようお願いいたします。なお、ご意見をお送りいただきます際には、ご氏名に加えて必ず組合員番号(組合員証に第〇〇〇〇〇号と記載されています)をご記入いただきますようお願いいたします。

宛先

東京医療生活協同組合 渉外・広報課

住所 〒164-8607

中野区中央四丁目59番16号

メール syougai@nakanosogo.or.jp

FAX 03-3381-4799



新渡戸 の 言葉

武士道精神は損得勘定を
取らざるなり
むしろ足らざることを
誇りとする

Chivalry is
uneconomical;
it boasts of penury.



『武士道』
新渡戸 稲造

今月の言葉は、昨年7月NHK Eテレ番組『にほんごであそぼ』の中で「誇り」というテーマのもと、教育者新渡戸稲造先生の『武士道』の言葉として放映されたものです。奈良本辰也氏の邦訳が「武士道は損得勘定をとらない。むしろ足らざることを誇りにする。」(三笠書房)で、矢内原 忠雄氏の邦訳は「武士道は非経済的である。それは貧困を誇る。」(岩波書店)となっています。

ボーイスカウトの創始者ベーデン＝パウエル卿は創成期の20世紀初頭に原典の『武士道』を読み、英国の騎士道の衰退を惜しみつつ、武士道が日本に未だ息づいていることを称賛しました。本場英国のパブリック・スクールでは伝統的な教育システムの中で学生は紳士として待遇され、自由の精神が厳格な規律の中に育まれて自身の行動を律することで、騎士道の修業やノブレス・オブリージュ(高貴なる者の義務)の礎になっています。英国には、一定の原則(principles)に反しない限り、状況に応じて柔軟に実行に移すことは一向に差支えなく、一律の制約を厭う国民性があるとのこと。『自由と規律ーイギリスの学校生活ー』池田 潔著 岩波新書 1949)

早朝出勤時、西に暖色のモルゲンロートに染まる白銀の富士山、東には川霧の遥か彼方の暁の空にくっきりと根を張る紫峰筑波山が遠望される頃となりました。明澄な大気のもと関東平野の西端に居る己の立ち位置を実感しています。今年が皆様に良き1年となりますよう祈念しています。

新渡戸記念中野総合病院 病院長 山根 道雄

